

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471903052
法人名	有限会社Cocci
事業所名	グループホーム ちゃばしら
訪問調査日	令和2年12月11日
評価確定日	令和2年12月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は20項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和2年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471903052	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年3月1日	
法人名	有限会社Cocci			
事業所名	グループホーム ちゃばしら			
所在地	( 238-0043 )			
	神奈川県横須賀市坂本町5-5-18			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	7名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	令和2年11月15日	評価結果 市町村受理日	令和2年12月28日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定員7名の小規模ホームで、毎日和気藹々と過ごしなが、目の行き届いた介護を実践している。利用者の身体の残存能力維持、認知症進行の緩和を意識し、リハビリを目的としたレクリエーション、また、家事等の生活リハビリを日常生活の中で行っている。気候が良い時は健康保持、体力増進の為に戸外への散歩、外気浴をするよう心がけている。また、地域の一員として、地域のお花見会や夏祭り、町内会日帰りバスツアー等各種イベントに参加をする等、地域交流にも積極的に取り組んでいる。開所以来職員の定着率が高い。職員の内、勤続年数10年以上の者が全体の6割、5年以上の者が9割を占めている。ここ数年代表者が「介護労働安定センター」「かなふく」主催の各種研修等に定期的に参加し、安定した事業運営、よりよい職場環境づくり等に必要な情報収集に努めている。各種助成金、補助金等を有効活用し、平成30年度には、利用者の入浴中の安全面の確保と介護職員の腰部への負担軽減の為に浴室バスリフトを設置。令和元年度には事業所の大規模防災改修等工事を行った。また令和2年度には災害等による断水時対策として給水タンクシステムの設置等、災害時等でも事業所の機能を維持出来るよう事業所設備の整備に努めている。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和2年12月11日	評価機関 評価決定日	令和2年12月25日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- この事業所は、有限会社Cocci（こっち）の経営です。法人の代表者が事業所の管理者を兼務しています。グループホーム「ちゃばしら」は、利用者が住み慣れた地域の中で、残された能力を維持し、家庭的な環境の中で安心して暮らして行けるようにとの思いが込められ、平成18年に開設されています。事業所の定員は7名と少人数ですが、ここ数年の間に特別養護老人ホームへの入所や、看取りにより、現在は5名の利用者が職員と共に家庭的な雰囲気の中で生活されています。ここ「グループホームちゃばしら」は京浜急行「汐入駅」からバスで10分程の「坂本」で下車し、徒歩3分程の道路に面した住宅街にあり、直ぐ裏手には桜の花見や、町内の行事等が開催される「桜ヶ丘公園」があります。
- 「地域に根差したホームにする」という理念の基に、積極的に地域との交流を図り、町内会に加入し例会などにも参加をはじめ、町内会主催の夏祭りや、お花見、秋にはバスツアーにも利用者と共に参加するなど、理念に掲げている「地域に根ざした」事業所運営が行われています。また、地域とも良好な関係が構築されており、民生委員の方を中心に地域の方々が、利用者を事業所の外で見かけた際には事業所に連絡を頂くようお願いしています。また、事業所の日々の食材は、季節毎の旬の物等を、近くのスーパーや、時に地域の商店を活用するなど、地域とのかかわりを大切にしています。
- 利用者の残存能力の維持や、認知症進行の緩和を目的とした家事全般などの生活リハビリでは、食事準備時の野菜の下拵えや、炒め物等調理、盛り付け、配膳、下膳、食器の洗い・拭き、洗濯畳など職員と一緒に行われています。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ちゃばしら
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざした事業所にする」という法人の理念の下、事業所が地域の一員として地域の中で生活することが出来るよう、職員一人一人が日頃から地域交流に積極的に努める意識をもって業務にあたるような職場環境作りに努めている。	事業所の理念「地域に根ざした事業所にする」と、5項目からなる理念を作成して玄関に掲示していません。職員の入職時には必ず理念について説明し、事業所の理念・ケア方針を共有しています。年度初めの職員会議では、運営推進会議にて得られた町内行事などの情報を報告し、利用者と職員共に参加することで、地域の一員として生活していることを実感できるようにしています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域行事への参加等積極的に行っている。また、日常の散歩等を通じて地域の方との交流を図っている。地域のゴミ収集場がカラスの被害が酷い為、事業所がカラス避けネットを用意した。徘徊する可能性のある利用者については、民生委員さんを中心に、付近の商店、交番等に情報提供し、徘徊しているところを発見した時等はホームに連絡、状況により保護の依頼等をお願いしている。	町内会に加入し例会などにも参加するように心掛け、来年度は町内会の組長当番の予定でいます。町内会主催の夏祭りや、お花見、秋にはバスツアーにも利用者と共に参加するなど、地域の方々との交流が図られています。民生委員を中心に地域の方々が、利用者のことを見守ってくれており、事業所の外で見かけた際には事業所に連絡を頂くようお願いしています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さんにはおよそ隔月で運営推進会議に出席して頂いている。民生委員さんを通して、事業所の認知症介護等について発信している。また、市内有志のグループホームが集まって開催している認知症介護よろず相談所等についての情報提供をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内に於いて、利用者や事業所の近況報告を行っている。また身体的拘束等の適正化の為の対策検討委員会の一部として運営推進会議を利用している。会議で情報提供をすると共に、そこで出た意見等については積極的に取り入れサービス向上に活かすよう努めている。	運営推進会議は、年6回民生委員2名、横須賀市担当職員、家族などの参加で開催しています。事業所からは利用者の近況報告や事業所の活動状況など報告して、頂いた意見等はサービス向上に活かしています。例年は防災訓練等を実施する際に開催していましたが今年度はコロナ禍の為、5月から書面での開催になっていますが、近況等が伝わりやすいよう工夫しています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは報告・連絡・相談を密にしている。また、年に1回、運営推進会議への出席を依頼している。	横須賀市からの情報は、メール等で頂き研修や講習会に参加しています。今年度は、コロナ禍の運営推進会議について相談し回答を得ています。コロナ禍のマスク、グローブ、消毒液などスムーズな配布がありました。また、横須賀市のグループホーム連絡協議会に加入しており、会合や研修に積極的に参加することで、最新の福祉の動向の把握に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の心身の状態の安定を図る為にも、身体的拘束等を行わないという理念の下、日常のケアにあたっている。開所以来、原則事業所の玄関戸は施錠せず、自由に入出入り可能にしてある（夏期は玄関扉を開放したままにしている）。施錠の弊害、事業所が日頃解錠をしている意味について、ご家族には入居前に説明し、了承を得ている。	身体拘束等の適正化のための対策検討委員会を3ヶ月に1回開催し、管理者、主任、ケアマネージャーを中心メンバーとして、身体拘束の必要性や身体拘束の定義などについて意見交換を行っています。1回は運営推進会議後に開催し、参加者の方からの意見なども気づきにつながることもあります。市主催の研修会に参加して、内部では伝達研修を行っています。日常の言葉遣いや、ケア方法について適時チェック表による自己点検を実施しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理職が高齢者虐待の外部研修に参加（行政主催のもの等、年3回以上参加）した後、事業所内研修もしくは情報開示等を行っている。また、高齢者虐待について適時自己チェックを実施し、自身の介護について見つめ直している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理職が毎年1回権利擁護の研修に参加し、それを元に、事業所内研修もしくは情報開示を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、契約時には十分な説明を行っている。法改定等があった場合は、改定の詳細について書類を作成し説明している。不明な点があった場合でも管理者と常時連絡が取れるような体制を整備しているので適時解決可能である。相談窓口は原則常時相談可能である。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族からの意見、要望に関しては積極的に受け入れ、可能な限り事業所の運営に反映させている。月に一度ご家族に利用者、もしくは事業所の近況を書類にて報告している。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点で、面会制限を設けている時は、写真を送る等して日常の様子をご家族に伝えるよう心がけている。	家族等へはコロナ禍のため、面会を2週間に1度、15分程で少人数に制限しています。毎月近況報告の書類と、活動状況の写真を添付して家族へ送っています。利用者の日常の気づきや、家族等の面会時や、電話等での意見、要望等は、サービス提供記録や、連絡ノートにて職員間で情報を共有し、可能な限り事業所の運営やサービスに反映させています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	よりよい事業所運営の為に、管理職は職員からの意見を可能な限り積極的に導入するよう心掛けている。管理職と職員の距離がいい意味で近く、そのことから職員の定着率が非常に高い。現在勤続年数5年以上の職員がほぼ9割、10年以上が6割という定着率の高さである。	申し送りは朝、夕に行い月に1度は職員会議を開催していますが、今年はコロナ禍の為、連絡ノートを使用して職員の意見、提案を聞いています。内容によっては、主任が話を聴き管理者に伝える事もあります。一部の職員とは個人面談を行い、目標設定や評価について話し合う機会も設けるなど、風通しの良い職場づくりに努めています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は介護労働安定センター、かなふく等主催の労務関係の研修に定期的に参加し、よりよい職場環境作りに必要な情報収集に努めている。また、教育訓練規定、人事考課規定等に基づき、各人の努力・実績、勤務状況等に応じた給与体系を整備する等、各自が向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員個々のケアの実際と力量を把握するよう心がけ、各々に適した研修参加の機会の確保に努めている。研修に参加した職員が中心となり、事業所内研修、研修内容の情報開示等を行い、事業所内のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎年度、市内のグループホーム協議会主催、また他事業所主催の研修等に積極的に参加している。それらの研修に参加することで、知識、技術が向上するだけでなく、同業者同士のネットワークも確立される。代表者は協議会以外にも、市内有志のグループホームの管理者、経営者等が中心になって開催している運営会議にも月に1回参加をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始の段階はもちろんのこと、入居相談の時点で、本人が困っていること等の相談を受け、要望等に関しては積極的に受け入れるように心掛けることで、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者同様、サービス利用開始の段階ではもちろんのこと、入居相談の時点より、ご家族が困っていること、不安なこと、要望等に関する相談等に親身に対応するよう心がける等し、信頼関係作りに努めている。相談窓口は基本常時対応可能になっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネが入居前、入居時にアセスメントを行い、本人、ご家族等より情報を収集し、「その時」どのようなサービスがその利用者に必要な見極め、サービス計画表に反映させている。また、必要に応じ、他サービスも利用するような計画表を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	小規模ホームであることを活かし、目の行き届いたケアを提供する中で、職員、利用者皆が家族であるような関係作りを心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には毎月1回利用者の近況を書面にて報告しているが、適時ご家族へ報告・相談・連絡をし、必要に応じてご家族へ協力を依頼することになっている。毎夏、またはクリスマス期等に開催するイベントにご家族も招待している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族又は馴染みの人へ手紙を書く等の機会があった場合は、プライバシーに配慮し、必要に応じた支援を行っていた。また馴染みの人がホームに面会に脚を運びやすいように、特設面会時間を設けてはいない（面会時間については良識の範囲でというお願いはしている）また、外出・外泊は基本自由にして頂いている。※現在は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から面会制限を設けている。	例年では家族の面会が、週2回や月2回など様々ですが、少ない方でも月に1回は来訪があります。家族の面会で、一緒に外出して食事や、お墓参りをして来方や、大型連休には外泊されて来られる方もいます。利用者が入居以前に属していたコーラスグループのコンサートへ行く支援もしています。今年ではコロナ禍のため面会制限を設けていますが、家族との電話の遣り取りなどは、積極的に支援して馴染みのひたとの関係を継続できるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	小規模ホームであることを活かし、利用者皆で出来るような日中の活動を職員が考え、日々取り組んでいる。また、皆で家族であるような関係作りを心掛けている。利用者内でも色々と人間関係の問題もあるが、そこは職員が間に入り調整をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も賀状を送るなどしている。また、もし退居後であっても、相談事等があった場合は、可能な限り対応するよう心がけている。対象者が亡くなった後も、SNS等で時折連絡を取り合っているご家族もいる。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント等を通して、利用者一人一人の希望、意向の把握に努め、利用者本位の生活が出来るよう心掛けている。	入居前と入居時に、ケアマネジャーがアセスメントを行い、利用者の生活歴や暮らし方の希望等の情報を把握しています。入居後は職員全員で、日常の会話や仕草等からの気づきなど個人記録や、支援経過記録に記入して情報を共有しています。介護計画の更新時には家族へ要望書を送り、家族の希望や意向を把握しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを元に、利用者のそれまでの人生（生活歴等）、サービス利用に至るまでの経過について把握することに努め、ホームでの生活に活かすよう心掛けている。調理が得意な方については、職員と一緒に調理を行ったり、英語が得意な方については、職員が英単語を使ってコミュニケーションをしたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議、または日常の中で管理職が中心になって必要に応じて話し合い又は情報開示をし、ホーム全体で利用者一人一人の状態把握に努めている。場合により、家族等に情報提供を求めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が日々快適に過ごせるよう、ケアプラン更新時には利用者またはそのご家族にサービスに対する要望書を記入してもらい、状況・希望に応じてご本人またはそのご家族等にもサービス担当者会議に出席してもらおう体制を整備している。また、必要に応じて面談の場を設け、出た意見等はケアプランに反映させ、現状に即したプランを作成し、提供するサービスの向上を図っている。	入居前のアセスメントにより初回の介護計画を作成して、大幅な変更が無い場合は1ヶ月間様子見をしています。毎月ケアマネージャーが利用者全員のモニタリングを行い職員会議にて検討しています。3～6ヶ月毎に介護計画を更新していますが、更新時は、利用者または家族に介護計画に対する要望を「要望書」に記入して頂き、状況、希望に応じてサービス担当者会議への出席もお願いしています。更新の介護計画は面会時や、郵送にて家族への説明と確認をしています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや、サービス向上の為にプラスになる情報については、サービス提供記録表への記入だけでなく、職員間の連絡ノートに記入、必要に応じて職員回覧板、または口頭での伝達等を行い、皆で情報を共有、把握出来る様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者又はご家族のその時々ニーズに対応出来るよう、日頃より日課、またはサービス計画に固執せず、いい意味で柔軟、もしくは臨機応変に対応できるケアを心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人一人の暮らしを支えている地域資源への把握に努め、一人一人がそれまでの人生経験を活かせ、且つ安全で快適な日常を送ることが出来るよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が受診する医療機関については、ホームの提携医療機関に拘ってはならず、利用者本人、またはご家族の希望に沿った医療機関を受診するよう努めている。（入居前の掛かりつけ医を入居後も継続することは可能である。）入居後受診する医療機関についての説明、相談等は、入居相談時等に行っている。	入居時に、事業所の提携医療機関の説明をして利用者や家族の希望する医療機関を決めています。提携医療機関の内科は、月2回の訪問診療と月1回の通院をする方がいます。歯科は、3ヶ月毎の定期健診と必要に応じて往診があります。総合病院へ受診や入院をする場合は、提携医療機関に紹介状を書いて頂き受診しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員はなし。訪問看護利用時には看護師との連絡を密にし、利用者の体調管理に努めた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には管理職が中心になって、面会も含め、交代で病院に脚を運び、入院中の利用者の状態把握に努めると共に、退院後のホームでの対応の仕方等について医療機関より情報収集する等、早期に退院が出来るようなアプローチをしている。また入院時には適時医療機関にサマリー等を提出することで、医療機関に早く利用者の状態を把握してもらえよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態に応じ、重度化、終末期の話をご家族としている。その際、ホームで「出来ること、出来ないこと」等について説明をし、本人・ご家族が納得した上で、希望に沿った終末期のケアをするよう努めている。適時、掛かりつけ医、ご家族、ホームで面談し、意思等の統一を図っている。	入居時は、利用者の状態に応じて、重度化や終末期に向けたターミナルケアの説明をしています。状態の変化により医師、家族、管理者との面談を行い、医師からの説明と、事業所で「出来ること、出来ないこと」等について説明して利用者、家族が希望する終末期ケアの方法や、意思の統一を図っています。事業所ではこれまでにターミナルケアの経験があり、対応のための研修も行っています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故発生時のマニュアルを作成し、事業所内で周知徹底をしている。また救急法の研修へ参加した職員が中心になってホーム内で研修を行っている。また緊急時の対応については、職員会議だけでなく、適時職員間で確認、情報共有等をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害等の各災害に対応したマニュアルを作成している。火災訓練に関しては、防災計画ののっとり訓練を実施している。また定期的に近隣の消防署と合同訓練を実施している。消火器、備蓄の置き場所・在庫等、防災設備の使用法等についても適時確認している。また、運営推進会議にて地域の方に災害時の協力体制について依頼をしている。管理職が中心となり、外部の災害研修等に参加し、職員に情報開示をしている。	防災計画に従って防災訓練を年3回実施しています。訓練は避難・誘導・消火などの総合防災訓練を実施し、その際に消防署に立ち合いをお願いしています。さらに、火災・地震・水害など各災害の対応マニュアルを整備し、災害研修に参加するなどして、全職員に災害対策を周知すると共に災害意識を高めています。まだ、横須賀市内のグループホームでは設置している事業所は少ないですが、今年度から断水対策として新たに給水タンクシステムを設置し、災害時等でも事業所の機能を維持出来るよう設備の整備に努めています。備蓄品は米、缶詰など3日分を準備しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営方針で利用者への介護は同視線で、また畏敬の念を持つよう提示し、職員一人一人がそのことを念頭においてサービスを提供している。利用者への声かけは周りの状況を見ながら慎重に行うようにしている。利用者のメインの生活の場であるリビングルームでの会話の内容には充分注意をしている。	利用者が集まるリビングルームでの会話は、内容はもちろんのこと大声を出さないように十分な注意を払って対応しています。横須賀市主催のコミュニケーション研修には毎年参加し、内部で伝達研修も実施して、コミュニケーションスキルを全職員に伝えています。排泄介助時などは、大声を出さず近くに寄り小声での声掛けをするようにしています。適時自己チェックを実施して、言葉遣いやケア方法を点検しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを職員一人一人がくみ取り、自己決定が出来る様ような環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人がホームの主役という理念の元、一人一人の利用者の生活リズムを大切に一人一人の利用者本位のサービス提供を心掛けている。一人一人の希望は可能な限り尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人一人の身だしなみに気を配り、毎日皆と一緒に整髪、化粧等の整容を行う時間を設けている。女性利用者は外出時に薄いお化粧をする様な支援もしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人が各々の能力に応じて、調理、お茶入れ、配膳等の準備から食器洗浄、食器拭き・片付け等の一連の流れを職員と一緒にやっている。献立はその都度決める為、食べたい物の希望を聞いたり、食材の在庫状況により献立を一緒に考えたりもしている。また、食事は利用者、職員で一緒にの時間に、同空間で食べている。	日々の食材は、近くのスーパーや八百屋などに買い出しに行き購入しています。献立は食材の在庫状況や、利用者の希望を聞き、毎日その都度決めています。特別食や、行事食も細目に取り入れて食事を楽しんでいます。利用者は野菜の下拵えや、炒め物、盛り付け、下膳、食器の洗い・拭きなど職員と一緒に手伝っています。誕生日には、名前入りのケーキでお祝いをしています。また、季節感や彩り、盛り付けなども工夫しながら食事が楽しめるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重、既往症等に応じ、食事制限等が必要な場合は、食事量の調整を行う。また水分摂取量については一人一人記録をし、状況把握に努めている。夏期には水分摂取量に十分注意をしている。水分補給補助用としてポカリスエット等の寒天を作り、適時提供している。夏期はおやつをゼリー類を中心にする等心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。利用者一人一人に、出来るところは極力ご自身でして頂くように心がけている。口腔内については、適時職員が確認をし、口腔内の清潔に努めている。定期的に提携歯科の検診を受診している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の意思伝達が困難な利用者、オムツ利用の利用者、または身体的に重度の利用者も定時、または適時トイレへ誘導をし、可能な限りトイレで排泄をする支援をしている。排泄介助の際も、出来る所は極力ご自身でして頂くよう心がけている。	夜間のみオムツを利用する方が1名いますが他の利用者は、全員昼夜トイレで排泄をしています。失禁を防ぐように一人ひとりに合ったタイミングで声掛けや、排泄の介助をしています。排泄介助の際は、羞恥心にも配慮しながらズボンの上げ下げなど、出来ることは極力やって頂くように支援しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が身体に及ぼす影響については研修、又は資料等提示、回覧することで、職員一人一人の理解を促している。また、適時飲食物の工夫、腹部マッサージの実施、日常的に水分摂取量の把握、運動をする等心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴表を作成し、一人一人が公平に入浴出来る様になっているが、一人一人のその時の心身の状況に応じた対応をしている。入浴拒否の利用者に対しても、対応する職員が交代する等臨機応変に対応している。また必要に応じ、シャワーキャリーを使用、重度の利用者の入浴時の安全面確保のために、バスリフトを導入した。また、令和元年度浴室全面改修をし、快適に入浴が出来る様高断熱浴槽に交換をした。	入浴は、基本的に週に2回入り、利用者によっては3回入る方もいます。重度の利用者でも安全に入浴して頂くために、浴室の全面改修を行うとともに、バスリフトを導入したことで、十分な安全を確保した上で入浴介助が可能となりました。また、入浴を拒否する利用者に対しては、声掛けの工夫や、対応する職員を交代するなど対応しています。入浴を楽しんで頂くために、季節ごとにゆず湯や菖蒲湯を実施しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホームとしての日中の過ごし方について、おおまかな流れは決めているが、基本的に、一人一人の気持ちを尊重し、それぞれのペースで過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が服薬の目的、副作用等を理解出来るよう適時確認を行っている。薬の変更についての申し送りは、個人記録、職員連絡ノート、口頭伝達と3段階で行っており、薬変更後の利用者については十分に注意して経過観察を行っている。近隣薬局と連携体制を取っており、週に1度薬剤師がホームに来所し、必要に応じて指示、助言等仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人が、それぞれの残存能力、生活歴等を活かし、ホーム内で役割を持てるような支援を心がけている。また日常を楽しく、快適に過ごせるような環境作り、支援に努めている。趣味、嗜好品がある方については、可能な範囲でホームでも継続して楽しめるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時は、健康増進、体力保持の為に、戸外への散歩、または敷地周辺での外気浴を行っている。また季節ごとに車を使用して外出を行っている。利用者によっては馴染みの場所に出かけることもある。町内のお祭り等に参加をする場合は、適時地域の方にも協力して頂いている。	天気や気候が良い時期は、毎日近くの住宅街を散歩しています。敷地周辺での外気浴を楽しんだり、近くのコンビニまで買い物に行く利用者もいます。ドライブでは季節ごと桜の花見や、菖蒲園、ソレイユの丘、鎌倉などに行っています。家族と一緒に外出して自宅やお墓参りを毎月する利用者もいます。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が個人でお金を保持することについては、本人・家族の希望、意向に沿って支援するよう心がけている。金銭所持については入居時等に説明をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は利用者が親族に手紙を書く等の支援を行っていた（現在は対象者、希望者不在）。電話に関しては利用者、またはご家族より希望があった場合は状況に応じてかけて頂くようにしている。新型コロナウイルスによる面会制限中は、電話でご家族と話すようにした。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月利用者とその月々の季節感を出せる様な掲示物（カレンダー）を作成している。幼稚な雰囲気にならぬよう、開所以来ホーム内には過剰な掲示物、飾り等はしないよう努めている。また同時に「施設感」を出さず、あくまでも普通の家庭的な「家」の雰囲気を出すよう心がけている。日常の掃除、換気、温度・湿度調整を徹底することで、感染症予防に努めるのはもちろん、ホーム内を快適な空間にするよう心掛けている。	玄関を入ると直ぐリビングになっており、利用者皆さんの顔が見えます。開所よりリビングや廊下には過剰な掲示物、飾り等はしないよう努め、あくまでも普通の一般家庭であるという雰囲気を大切にしています。毎月職員が交代で、その月々の季節感を出せる様なカレンダーの下地を作り、利用者と一緒に貼り絵や、折り紙、塗り絵などで工夫して仕上げ掲示しています。リビングの掃除は利用者も一緒に行い、加湿空気清浄機も設置され、快適な空間が作り出されています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、気が合う利用者同士で、過ごせる様な場面作りを心掛けている。利用者がリビングではなく、居室で過ごしたいというような時は、集団を強要せず、各々自由に過ごして頂くよう、声かけをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自宅にいた時と同じ様な空間、又は感覚で過ごして頂けるような環境作りの為に、居室には使い慣れた家具、写真など馴染みの物を持参して頂くことを入居時、または入居相談時に本人、又はご家族に勧めている。お茶碗、箸、湯飲み等食器類に関しても、新品の物を用意するのではなく、使い慣れた物を持参してもらっている。	居室にはエアコン、ベッド、防災カーテン、照明器具が完備されています。入居時には使い慣れた整理ダンス、寝具、テレビ、縫い包み等と、お茶碗、箸、湯飲みなども持ち込んでいます。毎日の換気や、掃除は職員が行い季節ごとの衣替えなどは家族や、職員が支援しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は完全バリアフリーではない。利用者が安全かつ、出来るだけ自立した生活が送れるよう、必要な箇所に必要な物（手摺り等）を設置。また、段差等については、段差を意識して歩くことを促すことで、認知症進行の緩和にも繋がると意識して、開所以来支援を行っている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム ちゃばしら

作成日

令和2年12月15日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	20	新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う面会制限により、これまでの様な方法での馴染みの人や場との関係継続が困難	感染拡大防止に注意しつつ、極力馴染みの人や場との関係継続に努める	面会については現在2週に一度で1回15分程度、面会場所を居室（十分な換気をしながら）限定とし、原則面会者1名（状況により2名まで可）等のルールを取り決め行っている。また、近況報告としてそれぞれの利用者の写真等をご家族に送付、希望者に関してはご家族と電話で話す等している。今後の感染状況により更に面会が厳しい状況になるような場合はテレビ電話等の使用等、新たな面会方法の導入を検討する。	現在進行中～令和2年度中
2	35	火災、地震等への対応だけではなく、水害、豪雨、台風、大雪等近年の異常気象による自然災害への対策の徹底。	いかなる災害時にも、全ての職員が落ち着いて対応出来る。災害に対する各自の自助努力意識の向上。災害用設備について全ての職員が使用出来るようになる。ハザードマップ等の理解。	災害時等マニュアルの周知徹底。火災、地震等の訓練だけでなく、各災害を想定した訓練を実施。自家発電機、給水システム等新たに導入した災害用設備の使用方法について管理者が中心となり定期的に各職員に確認をする。	現在進行中～令和2年度中
3	49	新型コロナウイルスの影響により、今までの様に外出、外食等が出来ない状況にあり、利用者にとっての「楽しみ」が減っている。	外出は出来ないが、健康増進、体力保持のためにも近隣への散歩等へはこれまで同様極力出かけるようにしたい。外食の代わりにイベント食を増やす等する。	気候がいい時は散歩へ出かけるようにする。密を避けドライブ等行い、車窓からの景色を楽しむ。外食の代わりに季節折々のイベント食の機会を増やす。	現在進行中～令和2年度中

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。